

# いわいの大地

農家と農業委員会をつなぐ広報誌

新年にあたってのご挨拶



一関市農業委員会  
会長  
伊藤 公夫



謹んで新春のご祝詞を申し上げます。

皆様方には輝かしい新年をお迎えのことと存じます。平成から令和への改元から早や2年目を迎えました。平成の時代約30年の間には、東日本大震災など未曾有の災害が数多く発生し、農業・農村は甚大な被害に幾度となく見舞われてきました。令和元年においても、巨大台風による風水害、異常気象による高温障害など農作物の生育・収穫に多大な影響が続いています。農業・農村の足元では、担い手の減少・高齢化、遊休農地の増加、有害鳥獣被害の拡大などへの対策が必要な一方で、自然災害への備えも求められています。

現体制の農業委員会は、この3月で任期3年の折り返し地点を迎えます。昨年からの地域農業マスタープラン実質化の取組みを進めています。これは近い将来の地域の農業のあり方を地域の皆様で十分に話し合って決めていただく取り組みで、農業委員、農地利用最適化推進委員もプランの取りまとめに積極的に参画して参ります。

一関市は、県南にあって比較的气候が温暖で、高速道路や新幹線等交通網が整備されていて立地条件に恵まれています。園芸を中心に新規就農の若者も増えており、リモコン式草刈機やドローン等技術革新や省力化に対応したスマート農業を積極的に導入する先進的な農業法人もあります。担い手育成への支援も総力を挙げて取り組んで参ります。

年頭にあたり、今年の豊作と皆様方のご多幸を祈念し、農業委員会の活動にご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。新年のあいさつといたします。

## のびのびと楽しめる農業経営をめざして

小野寺晴海さん(28) ●千厩地域



小野寺晴海さんは高校を卒業後、盛岡地区広域消防組合に就職し、消防士として9年間活躍していました。組織の中で働く難しさを感じていたときに、「父親がのびのびと農業を楽しむ姿を見て、生涯続ける仕事はそのほうがいい、自分も農業をやってみようと思ったんです。」と就農のきっかけについて話す晴海さん。



2019年4月に帰郷し、中古ビニールハウス12棟を買取り、トマトの栽培を始めました。「実家がトマト農家なので、自然にトマトを選びましたが、経営は別。一緒にやると多分ケン力になるから。」と笑います。



就農1年目は、認定農業者である父、勝義さんの指導を受けながらも、天候や価格に左右されたうえ、作業が追い付かず大変だったそうです。スタートはトマトですが、これからはそのほかの作目もいろいろやってみたいと思っていますとのこと。

「地域に若い人たちがいなくなり、自分が生まれ育った場所がさびれていくのが残念。若い人が働く環境を作っていかなければならないと思っています。最終的には法人化して6次産業化で加工まで手掛けて、年間を通して雇用を確保できるような経営をしたいですね。何年かかっても目指す価値はあると思っています。」と将来の目標を話してくれました。

父、勝義さんが以前、「農業を若い人たちが職業に選ぶ農業をしたい。」と話していたことを思い出しました。志を同じくして、一関市の農業の先頭を走ってほしいと願っています。



# 話し合いました、地域農業のこれから

## 地域農業マスタープランの実質化

令和元年から全国で地域農業マスタープランの実質化の取り組みが始まりました。既にアンケートなどをお願いしている地域もありますが、この取り組みについてお知らせします。

### 地域農業マスタープランとは

中心となる担い手や、将来の地域農業のあり方などを地域の農業者の話し合いによって取りまとめ、市町村が公表したもので、全国では15、000余りのプランがあります。

### なぜ、今、マスタープランの実質化なのか

現在の地域農業マスタープランは、地域の徹底した話し合いに基づいたプランがある一方、そうとは言えないものもあります。これからの農業を担っていく人材を確保していくためには、安定した所得を確保していくことが重要です。そのためには「誰が地域農業を担っていくのか」「誰に農地を集積・集約化していくのか」を地域の皆さんで十分に話し合っ

て決めていくことが必要です。

### 地域農業マスタープランの実質化

今回の取り組みでは、市内を33地区（昭和30年当時の市町村ごと）に分けました。それぞれの地区内で、出し手と受け手が特定されている農地が50%以上となっている地区は、既にマスタープランが実質化している地区としました。

### 既に実質化している地区

一関、萩荘、舞川、弥栄、永井、油島、花泉、老松（照盛地区）、日形、金沢、奥玉、小梨、磐清水（仏坂地区）、薄衣、門崎（一部）、黄海（曲田地区）

出し手と受け手が特定されている農地が50%に満たない地区については、実質化のための取り組みを進めます。

### 実質化の取り組みを進める地区

厳美、涌津、老松（照盛地区を除く）、大原、摺沢、興田、猿沢、渋民、千厩、磐清水（仏坂地区を除く）、長坂、田河津、松川、折壁、矢越、大津保、門崎（一部）、藤沢、八沢、黄海（曲田地区を除く）

## 実質化のための取り組み

### ① アンケート調査の実施

昨年11月に、耕作者の皆さんに「今後の農地利用に関する意向調査」を行いました。回答いただいた皆様には、ありがとうございました。まだ提出していない方は、これからでも回答をお願いいたします。なお、地域の農業委員・農地利用最適化推進委員が提出のお願いに訪問する場合があります。

### ② 地域の現況把握

アンケートの結果を取りまとめ、農業者の年齢階層別の就農や、後継者の有無など、現在の状況を地図により可視化します。作成した地図は、地域での話し合いに活用します。

### ③ 地域での話し合いと将来方針の作成

自分たちの地域について、作成した地図などで現在の状況を情報共有します。その上で、地域の5年から10年後の農業について話し合います。中心的な役割が期待される担い手や、集積・集約化する農地の場所や面積、活用する制度などの将来方針を定めます。

話し合いの時期や範囲は、決まりしだいお知らせします。皆さんの地域の将来を決める大切な話し合いですので、積極的に参加し、意見を出し合ってください。

地域で決めた将来方針は、市が開催する検討会を経て新しい地域農業マスタープランとして公表されます。

## 地域農業マスタープランの実現

地域農業マスタープランの実質化の取り組みは、プランを作ることが目的ではありません。プランに定めた地域の将来の実現をめざしましょう。

地域農業マスタープランの実質化に関する問い合わせは、

- 農政課
- 農業委員会事務局
- 各支所産業経済課へ



# 令和元年度 岩手県農業委員会大会が開催される

令和元年11月7日、都南文化会館で開催された岩手県農業委員会大会に農業委員、農地利用最適化推進委員12名が参加しました。

大会表彰では、当委員会から1名の委員が永年勤続委員として、3名の委員と当委員会が農業委員会等活動（農業者年金部門）において表彰を受けました。また、熊谷郁雄さん（藤沢町）が農政功労者として表彰されました。

大会では、「農地利用最適化



推進活動の充実強化に関する決議」「農業施策の充実に関する要請決議」「農業委員会の体制及び活動の充実強化に関する申し合わせ決議」の議案を決議し、大会宣言を採択しました。

大会に引き続き、「中山間地域の活路を考える」と題して三浦進氏（農中信託銀行(株)顧問）による講演が行われ、中山間地域の現状と課題、中山間地域をめぐる最近の潮流などについて学びました。

## 市長へ意見書を提出

12月10日、農業委員会から市長に対し、「令和元年度農地等の利用の最適化の推進に関する意見書」を提出しました。

当日は委員を代表し伊藤公夫会長、渋谷皓会長職務代理人、石川誠司農政専門委員長、佐藤均同副委員長、佐藤繁農地専門委員長が出席し、中川文志農林部長らの同席の下、佐藤善仁副市長に意見書を手渡しました。

意見書は、担い手への農地利用の集積・集約化、遊休農地の発生防止・解消、新規参入の促進、有害鳥獣による農作物被害の軽減の4項目について、関係機関と連携して課題解決に向けた施策を推進するよう要望するものです。

佐藤副市長は、「意見書は農政だけにとどまらず、市政全体の課題という側面もある内容。予算編成に具体的に反映できればと思う。」と話しました。

## 新任農業委員紹介

農業委員は、室根地域担当の芳賀武郎委員の逝去により7月から1名が欠員となっていました。

このたび、新しい農業委員として藤原美喜男さんが任命され、12月16日に勝部修市長から辞令が交付されました。任期は令和3年9月19日までです。



藤原 美喜男

60歳 室根町折壁

なお、室根地域の担当農業委員は次のとおりとなります。

担当地区	農業委員氏名	電話番号
折壁	藤原 美喜男	64-2856
矢越、津谷川	千葉 綾 雄	64-3547

## 全国農業新聞の購読を！



農業委員会組織が協力して作成している新聞で、毎週金曜日発行しています。

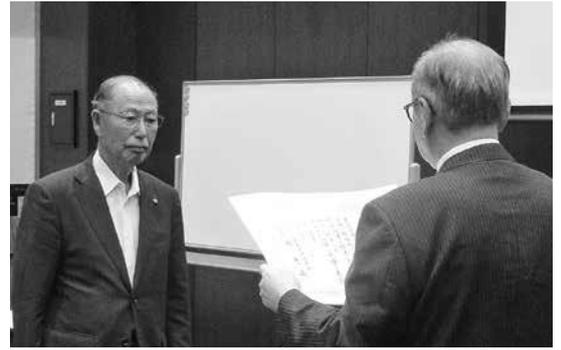
●お申込みは、農業委員会または各支所産業経済課まで

購読料

月額 700円



# 農業者年金基金 理事長賞を受賞



一関市農業委員会は、平成30年度の農業者年金加入推進活動において、新規加入者の確保に努めたことが評価され、令和元年8月に農業者年金基金理事長賞を受賞しました。

新規加入者数部門「目標達成度合い（20歳から39歳以下新規加入目標数5人から9人）」の部で全国第2位（目標数6人、加入者数11人、達成度合い183%）という成果を収めました。

加入推進活動において、加入推進名簿の整備とそれに基づく重点加入推進対象者の絞り込み、戸別訪問の実施といった取り組みを数年にわたり着実に進めた結果、5年ぶりに新規加入者数が2ヶ台となり、目標数を達成しました。

加入推進部長を始め、農業委員や農地利用最適化推進委員、事務局職員が連携して加入推進活動に熱心に取り組んだことが高く評価されました。

## 経営移譲年金・特例付加年金を受給している方へ

経営移譲年金・特例付加年金は、後継者や第三者に経営移譲等することで、農業経営を引退した方が受給する年金です。受給者本人に農業収入があると、農業経営を再開したとみなされ、年金が支給停止となる可能性がありますので、ご注意ください。（受給者本人の農業共済への加入、経営所得安定対策等交付金の申請も同様です。）

経営移譲等を受けた方は、農地の管理・耕作をきちんと行いましょう。

農業委員会では、一関市のホームページで委員会に関する情報を提供しています。毎月の総会日程や議事録、農作業標準賃金、届出や手続きの案内などを掲載していますのでご覧ください。

<https://www.city.ichinoseki.iwate.jp/>  
一関市のトップページの「総合案内トップページへ」をクリック。画面上部の「産業振興」タブから農業委員会ページへお進みください。



農業者年金のお問い合わせは地域の農業委員またはお近くのJA窓口へ 電話 **21-8692**（一関市農業委員会）

## 農地賃借料情報

平成30年1月から同年12月までに締結（公告）された賃借料における賃借料水準（10a当たり）は、以下のとおりとなっています。

① 田(水稲)の部 (10a当たり)	一関・花泉地域		平均額	最高額	最低額	データ数
	大東・千厩・東山・室根・川崎・藤沢地域		6,840円	12,000円	2,271円	1,220
大東・千厩・東山・室根・川崎・藤沢地域		8,423円	14,688円	3,000円	308	
② 畑の部 (10a当たり)	一関・花泉地域		平均額	最高額	最低額	データ数
	大東・千厩・東山・室根・川崎・藤沢地域		5,121円	8,448円	3,000円	16
大東・千厩・東山・室根・川崎・藤沢地域		3,421円	6,164円	1,720円	59	

備考

- 地域ごとに契約額が極端に高額、低額（平均値の1.7倍以上および0.3倍以下のもの）な実例をあらかじめ削除し全体集計しています。
- 賃借料が無料の使用貸借契約もありますが実例として含めていません。
- 実際の賃貸借契約の際は、対象農地の収穫見込み量や形状、隣接する道水路等の状況を考慮し両者で協議の上決定してください。
- 平成31年1月から令和元年12月までにおける賃借料情報は、まともしだい農業委員会事務局の窓口とホームページでお知らせします。（2月ごろを予定。）

「いわいの大地」編集委員会  
編集委員長 佐藤 圭一  
副委員長 千葉 太郎  
編集委員 佐藤多賀幸 畠山 潔  
菅原 清一 遠藤 勝幸  
菅原 良博

農業委員 畠山 潔

私も一人の農業者として頑張ります！  
本年が皆様にとりまして実り多い1年になりますことを心から祈念します。

農業の全国的傾向である農業者の高齢化、後継者不足、遊休農地増加の懸念から、私の地域でも、農地の基盤整備を進める計画です。そこに生きる者として小さい力ながら皆さんと結集して諸問題を乗り越え、我が地域の農業を存続させる目標に向けて、元旦に、集落を一望できる高台から、眼下に広がる田園風景を想像し、その景色を発展させていくため私も使命を果たしたいと心に刻もうと思えます。

新春おめでとうございます。  
昨年は希望に満ちた令和の幕が開け、日の丸を背負ったラグビーワールドカップ日本代表の大活躍に勇気と感動をもらい、最後まで諦めない精神がよい結果を生むことを学ばされました。一方で豪雨台風等で普通では考えられない多くの災害に悩まされた厳しい年でもありました。近年被害が増えており、今年は穏やかな年であるよう願うところであります。

編集後記

